

第2回 葛飾区基本構想・基本計画策定委員会（第2分科会） 会議録

○場 所：葛飾区男女平等推進センター 多目的ホール

○日 時：令和元年11月8日(金) 午前10時～12時

○出席者：中林分科会長、谷川副分科会長、大山委員、中村委員、青木委員、藤井委員、武者委員、市原委員、染谷委員、浅野(文)委員、吉田委員、松村委員、石川委員、川名委員、長委員、田口委員、菊入楽団長、大塚会長

1 開会

2 分科会長・分科会長の互選

分科会長として首都大学東京・東京都立大学名誉教授である中林委員が、また、副分科会長として中小企業診断士である谷川委員がそれぞれ互選された。

葛飾吹奏楽団の菊入楽団長及び、アジアと交流する市民の会の大塚会長の出席が承認された。

会議の公開及び、会議録、会議資料の取扱いについて、全体会と同様とすることが決定された。

3 議事

(1) 策定委員会検討スケジュールの変更について

○葛飾区基本構想・基本計画策定委員会検討スケジュール(案)(資料1)

分科会長 なるべく多くの委員に参加してもらうためにも、委員への連絡等は早めに実施してほしい。

(2) 新基本構想に係る検討の方向性等について

○新基本構想に係る検討の方向性等について(案)(資料2)

委 員 別紙2の10頁「(5) 産業構造の変化と働きやすい環境整備」について、巨大IT企業が事業を拡大しているとあるが、区としてはどのような対策を考えているのか。これらの企業を誘致して、産業を促進していく必要がある。以前は工場が多くあったが、今は都営住宅等の住宅地となっており、税収や働き口の減少に伴う人口減少につながっている。

別紙2の11頁「(6) 観光への期待の高まり」について、葛飾区にはホテルがなく、観光客が素通りしている。宿泊施設の誘致も必要ではないか。

副分科会長 別紙1について、理念と将来像の位置が逆ではないか。日本国憲法の構成をみても、理念は区民との約束、原理原則であり、理念を前提として将来像としてのあるべき姿を示すべきではないか。現基本構想もそのような構成になっている。

分科会長 今の指摘は私も気になっている。また、別紙3にもあるとおり、将来像「区民とつくる、水と緑ゆたかな心ふれあう住みよいまち」や理念「区民との協働」に、「区民」という文言が出てくるが、「区民」の定義、つまり葛飾区の「行政の対象となる人」を新基本構想において明確にする必要がある。

委 員 別紙2の7頁「完全失業率」について、若者の完全失業率が高くなっている理由は分かっているのか。

事務局 新たな産業の誘致については、区としてもより強く推進していく必要があると考えている。一方、働き方改革により、場所にとらわれない働き方も進んでいるのでその点を踏まえ検討したい。ホテルの誘致については、まちの賑わいの要素の中で検討していきたい。理念と将来像の関係については、新基本構想における記載方法は見せ方を含めて検討するが、理念は区政運営の全てに関連するものとして認識している。区民との協働については、区民だけでなく事業者等の関係者とも進めていきたい。完全失業率については、詳細なデータが手元にないため確認する。

分科会長 企業の誘致や観光は、インバウンドの観点から共通することも多い。葛飾区は都の都市づくりのグランドデザインでは成田空港に一番近い都心域であり、積極的に取り組んでいく必要がある。新基本構想の基本的な方向性を見ると、縦割りの印象だが、横串が重要である。策定にあたっては、連携の必要性を踏まえ、横串が見える形で体系化することが必要である。

事務局 基本的な方向性については、例えばスポーツは生涯学習の観点から基本的な方向性の「成長・活躍」にも関わるが、健康の観点から「安全・安心」にも関わるというように、重複を気にせず必要な要素を洗い出すつもりで検討した。

委員 やはり縦割りという印象を受ける。自然環境と都市環境にも連携が必要であり、垣根を取り払い、区民が中心となる施策を進めてほしい。

事務局 組織のあり方を含めて検討していきたい。

分科会長 分科会長としての確認だが、別紙4は区議会からの主な意見についての参考資料か。

事務局 区議会からの意見を委員に共有するため示しており、区議会と策定委員会の両方の意見を含めて検討を進める。

(3) 分野ごとの現状・課題について

○分野ごとの現状・課題（資料3）

委員 環境について、葛飾区は緑被率が23区の中でも低くなっている。農地が減り宅地や駐車場になることで緑が減っている。区長も緑を増やそうと関係団体とともに進めようとしているが、関係団体の人々にも疲れが見え、今後が心配である。公園管理を自主的に行なっている団体もあるが、ボランティアだけでは限界がある。団体に所属していない区民も参加できる仕組みが必要ではないか。ヨーロッパでは各家庭で緑や花を飾っており、それが緑化や景観づくりにつながっている。

委員 観光について、葛飾区にはリカちゃん、プラレールなどの観光資源があり、明日も区内で人生ゲームのイベントがあるが、新しい観光資源が必要ではないか。交通について、地下鉄8・11号線が住吉まで開通するのも長年かかり、葛飾まで延伸するにはさらに時間が必要である。今後の予定を考えると、時間や人員を割きすぎるのもよくないのではないか。また、水害の可能性が高い地域に地下鉄を延伸させるのは限界がある。

委員 防災について、先日の台風では水害が問題となったが、普段の対策は地震に関するものばかりとなっている。先日の台風の際に学校の体育館を避難所として開放したが、すぐに避難者で埋まってしまった。区民の避難ニーズに応じて、その他の施設も避難場所として使えるようにする必要があるのではないか。また、高齢者や障害者などの避難が課題。どのように避難させるべきかなど、避難勧告の前に自主的に判断して動けるような指導も必要ではないか。

委員 公園・水辺について、平和橋通りの中川の橋が低くて船が入れない。道路が使えないときに船を使用して避難等をするために、中川の橋をより高く上げてほしい。区から都に働きかけてほしい。

委員 地域活動について、20年近く町会長をしていた経験談だが、公団住宅のエレベータの利用者をみても様々な国の方がいる。ある公団住宅は3割が外国人であり、町会にも入らないため町会が成り立たなくなっている。外国人の子どもの就学状況の把握などもできているのか心配である。

分科会長 「地域街づくり」について、ハード中心に書かれているが、まちづくりは地域活動と一体的に検討することが重要であり、まちづくりを誰が担うのか、担い手の検討が必要である。また、地域活動は非常に重いテーマと考えるが、記載内容は限定的であり、まちづくりをどのようにやっていくかの記載がない。外国人についてもネガティブな内容が多いが、ネガティブに捉えるのではなく、どう共生するか考える必要がある。同国出身者がふれあえる場を作り、町会への参加にも取り組むことが大切。

事務局 緑被率をご指摘のとおりだが、団体のみなさまの協力もあり緑地の質は向上していると考えている。感謝を申し上げるとともに今後も引き続き、取り組んでいきたい。各家庭が花を飾るなど、個人としての参加を促すというのは貴重な意見として頂戴したい。

分科会長 緑化についてはパブリックスペースに限らず、身近な緑を増やしていくことが重要である。身近な緑であれば、一人ひとりが手入れもする。

事務局 農地については減少しており、農地保全については今後も引き続き検討していきたい。

事務局 葛飾区は観光資源に恵まれているが、新しい観光資源の創出にも取り組んでいきたい。

事務局 区内在住の外国人は約2万人2700人で、区民に占める割合は約4.9%となっている。転入時などに外国人向け生活ガイドブックの説明もしているが、十分に浸透していない。今後、日本語ボランティア教室の取組なども含め、しっかり情報提供していきたい。

事務局 地下鉄8・11号線をはじめ公共交通については、区民の方の意見も含め、引き続きバス交通や新金線の活用など交通利便性の向上に努めていく。

分科会長 生産緑地の動向も踏まえたまちづくりが必要ではないか。農地は産業経済の場でもあり、緑地など多様な役割を果たす。生産緑地制度の営農期限30年が2年後に終了する。営農者が病気、高齢などの理由により農業を止めることで、これまでは生産緑地は減少してきた。区が先買いできる制度ではあるが、多くの自治体は生産緑地を買っていない。今後ど

のように農地を残すのかなど生産緑地を活用したまちづくりについて検討してほしい。世田谷区では農地を買いあげ、区立の農業公園として区民が活用できるようにしている。外国人については、ネガティブに捉えるのではなく、一緒にまちづくりをしていく人たちとして捉える必要がある。いきなり自治会ではハードルは高いが、まずは交流の場をつくることが重要である。

委員 文化・国際について、区として様々なイベントを実施しており地域として盛り上がっているが、区全体にまで広がっていないと感じる。スポーツのまち葛飾というイメージは区内外に認知されている一方、芸術・文化活動に取り組む人々はあるが、協会や連盟に加入していない団体・グループも多い。区民が活動するために低料金で利用できる場所、防音設備など、個人でも気軽に芸術・文化活動に取り組める環境づくりが必要ではないか。また、協会や連盟の参加者は、高齢者ばかりで若い人がいない。吹奏楽は学校で盛んであるが、部活動の時間短縮の動きもあるため、地域で活動できる場所が必要である。加えて、小学校のわくわくチャレンジ広場に専門家に入ってもらい、子どもたちが芸術・文化にふれあうことができる取組が必要である。その他に、区の行事に統一感を出すために芸術・文化のロゴやキャッチフレーズなどを作成し、イベントを行う際に使用するなど、区が芸術・文化に取り組んでいることをPRしていくことも重要ではないか。

分科会長 区民が芸術・文化を鑑賞するだけでなく、自ら取り組む側の支援も検討する必要があると感じた。

委員 外国人について、区は日本語ボランティア養成講座を実施しているが平日の日中ということもあり、働いている人などは参加できていない。他区では区が率先してやさしい日本語を積極的に取り入れている。区は英語・中国語・韓国語の生活ガイドブックを用意しているが、やさしい日本語で充分理解につながる。他区の取組を参考にし、やさしい日本語などの取組を進めてほしい。外国人との料理教室には既に取り組んでおり、国際交流まつりは区外の方の参加も多く、2,000人以上の参加者がいる。IT企業等が公団団地を社宅で借り上げており、そこに外国人が住んでいるが、ほとんど町会に入っていない。多摩地域では団地の空室に若者を安く住まわせて町会の活動に参加してもらおうといった取組をしている。東京理科大学の葛飾キャンパスはこれから学生数の増加が見込まれる。東京理科大学との連携が必要ではないか。外国人とは交流ではなく、共生が求められている。技能実習生は労働時間が長く、土曜日も働いている。日本語を覚えたいという意欲はあっても、時間がない。葛飾区の良さ、日本の良さを伝えていくことが重要である。

分科会長 文化・国際について、外国人に関する記載はあるが、区民とともにどうしていきたいのか、という姿勢が感じられない。区民に何をしてほしいのかという視点での検討も必要である。他自治体では、子どもたちを中心に日常的に活発な交流を促すことで、そこから親の世代の共生につなげていく取組もある。

委員 観光について、行事に関してはたくさん書いてあるが、観光客がバスで来ても、ホテルが

なく宿泊できないほか、飲食店もない。また、葛飾区には大人数でパーティができるところがなく、区外に行ってしまう。地域経済への効果が薄いため、宿泊施設や飲食店を作る必要があるのではないか。

分科会長 コンベンション等で日本を訪問する外国人も多く、確かに需要はある。ただし、東京オリンピック後の動向も踏まえる必要がある。

委員 若い人の意見を吸い上げてスポーツ施設を整備してほしい。水元公園のクライミング施設の近くにローラースケートの練習場などを整備し、オリンピック選手を区から輩出するなど、若い人を育てていくことが重要ではないか。

分科会長 本日の意見については、事務局で整理し、基本計画に反映することを検討して欲しい。

事務局 本日いただいたご意見や視点については、事務局や庁内で検討を進めていく。

4 閉会

以上